芭蕉が訪れた歌枕の地・象潟

おくのほそ道紀行330年記念「歌枕 象潟の旅」

６月８日、にかほ市象潟郷土資料館で企画展「歌枕　象潟の旅」が始まり、初日の展示説明会には歴史愛好者など多くの方々が参加しました。

松尾芭蕉が『おくのほそ道』紀行で、歌枕の地・象潟を訪れたのが今から330年前。企画展では、本市に遺る芭蕉関連資料などを多数展示していますので、たくさんのご来館をお待ちしています。

▲展示物の説明を熱心に聞く参加者たち

みんなが楽しく過ごせるように

「人権の花」運動

６月７日、金浦小学校で「人権の花」運動が行われました。この運動は、主に小学生を対象とした啓発運動で、学校に配布した花苗を児童たちが協力して育てることによって生命の尊さを実感し、その中で豊かな心を育み、優しさと思いやりの心を体得することを目的としたもので、この日は、本校２、４、６年生の児童が162本の花苗を植栽しました。

▲みんなで協力して優しい気持ちで植えました

これからも唄い継がれる「秋田草刈唄」

第24回秋田草刈唄全国大会inにかほ

６月15日、仁賀保勤労青少年ホームを会場に第24回秋田草刈唄全国大会inにかほが開催されました。にかほ市に古くから唄い継がれている郷土の唄「秋田草刈唄」。全国各地から集まった105人の参加者は、大賞、高齢、年少の３部門に分かれ、日頃鍛えた喉で農民が馬を引いて草刈りに向かう道中の情景や気分を唄いあげました。

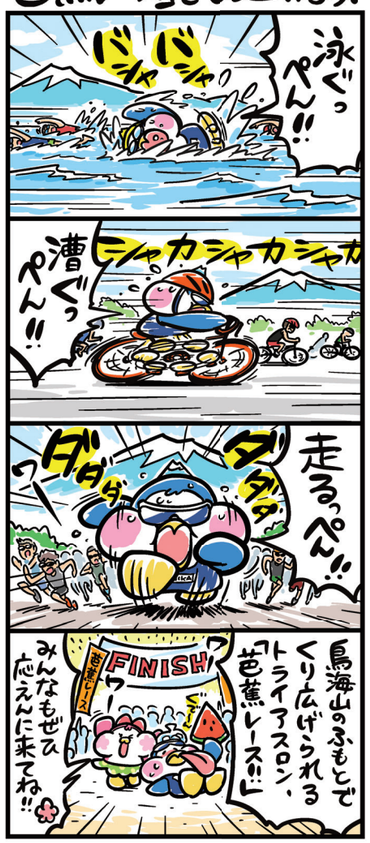
▲笑顔で優勝旗（大賞の部）を受け取る佐藤麻衣さん

盲導犬への理解を深める

院内小学校障害理解教室「盲導犬を知ろう」

６月13日、院内小学校で障害理解教室「盲導犬を知ろう」があり、小玉力さん（室沢）が講話と授業を行いました。「盲導犬を見かけたら自転車のベルや挨拶など声をかけてほしいこと」、「盲導犬は色盲なので信号機前では色を教えてほしいこと」の他にも、犬の雑学についてのお話に児童たちはうなずきながらメモを取り盲導犬への理解を深めました。

▲盲導犬と一緒に歩く小玉力さん



※今年のトライアスロン芭蕉レースは、7月21日㈰の開催です。

第14回

にかほっぺんのにかほ紹介！

絵・板垣奈々

みんなににかほのココを伝えたい
地域おこし協力隊　溝上由紀の

街角ニュース vol.12

昨年、汐見町でパーソナルカラー診断に参加し、今年４月に私の講演「にかほ市の魅力について」で話させていただいたご縁で、当地区のお母さんたちに教わりながらサロンで笹巻き体験をしてきました。初めての笹巻体験、笹の葉をくるっと巻き、もち米を入れ、い草の紐で結んでから茹でる工程。皆さんとワイワイ楽しい時間を過ごしました。何もつけなくても美味しいんですよ！すごく感動しました。

今回の笹巻以外にも、にかほ市にはこれらか旬を迎える岩ガキなどたくさんの恵みがあふれています。鳥海山と日本海の恵みに感謝して、「食の宝庫」の味覚を楽しみましょう♪

象潟郷土資料館の３階の池田修三展「いきものたちと」では作品を私が選ばせていただきました。２階の「おくのほそ道紀行330年 歌枕 象潟の旅」もぜひご覧ください。

鳥海山・飛島ジオパークリレーコラム
～日本海と大地がつくる水と命の循環～

＝第55回＝
「鳥海山の残雪風景は日本一！」

秋田大学大学院教育学研究科
教授　林 信太郎　氏

長い冬が去り、新緑がまぶしい季節になりました。この時期の鳥海山の残雪風景はすばらしいものです。残雪が筋状にのこり、雪と黒い山肌とがうねうねとした縞になって見えてきます。

鳥海山は溶岩だらけで、お菓子の「モンブラン」に似ているというお話を前回しました。頭の中にモンブランを思い浮かべてください。ここに粉砂糖をふるってみましょう。粉砂糖でモンブランのマロンペーストが隠れますね。この粉砂糖をちょっと吹いてみてください。マロンの細い筋と筋の間に粉砂糖が残ると思います。

鳥海山は表面が溶岩で凸凹していて、モンブランそっくりです。冬になると強風のために、溶岩と溶岩の間の谷に、吹き溜まりができます。先ほどの実験で粉砂糖を「フッ」と吹いたのと同じです。

雪は春になると解けだします。残雪はなかなか解けません。このようにして溶岩のところが黒く、残雪が白いというたいへんおもしろい残雪模様が見えているのです。

鳥海山の残雪風景は日本一！ぜひ、この光景を改めて味わっていただければと思います。

▲鳥海山の残雪風景は日本一！